

(様式1) 実践事例

学校名	福島県二本松市立小浜小学校	校長名	高橋 健一
住所	福島県二本松市小浜字藤町100番地	児童生徒数	192人
TEL	0243-55-2238	ホームページアドレス	obama.es@city.nihonmatsu.lg.jp

一人一人の考えやよさを生かすための指導方法の工夫と改善

1 少人数指導の方針

本校は、第4学年、第5学年以外は、学年2クラスの少人数学級である。また第4学年以上には市の算数科学力向上対策非常勤講師が加配されている。県の少人数教育の課題をふまえ、「教員一人ひとりの授業の腕をみがく」ことを現職の柱として、次のとおり授業改善や指導方法の工夫に取り組んでいる。

- ◇ 算数科における単元の学習内容に応じた学習形態の工夫
- ◇ 課題提示の工夫 ◇ 見通しをもたせる吹き出しの活用
- ◇ 一人一人に考えをもたせる工夫 ◇ 学び合いの場の設定
- ◇ 振り返りの場の設定



学年合同での授業(担任2人とT・T教員)

2 実践の概要(6学年1組17名 2組17名)

◎ 少人数指導で行った場合(担任2人とT・T教員)

- (1) 単元 「対称な図形」
- (2) 単元のねらい

対称な図形の観察や構成を通して、その意味や性質を理解し、図形に対する感覚を豊かにする。

手立て	少人数指導を生かすための配慮
<p>① 課題提示の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 前時とのちがいや前時まで学習したことを生かせないかどうかを考えさせた。 <p>② 見通しをもたせる吹き出しの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 課題に対しての気づきを「吹き出し」に書かせ、可視化させる。分からない児童には、「わからない」と書かせた。 <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; text-align: center;"> 対応する点 を見つけて いけばいい </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; text-align: center;"> 点Oを通る直 線を引こう </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; text-align: center;"> 反対向きに なるのかな </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; text-align: center;"> どんな形かな </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; text-align: center;"> 頂点と対称の中心を通る 直線を引いてみよう </div> </div> <p>③ 自分の考えをもたせる工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 吹き出しを基に自分の考えをノートに書かせた。 <p>④ 対話、交流の場の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ グループ内でお互いの考えを聞き合い、話し合いを行った後、自分の考えを再検討した。 	<p>①② 個に応じた指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 机間指導で課題が把握できていない児童について見取り、個別指導するとともに、全体で確認し、全員で見通しがもてるようにした。 ・ 児童の座席については、学習に対する関心や理解度に応じて3グループに分け、T1が真ん中で、T2、T3が両側ですぐ対応できるようにした。 ・ 吹き出しに「わからない」と書いた児童のつまずきを把握し、個別に指導した。 ・ T2、T3は、課題解決の見通しがもてた児童をT1に合図し、発表の機会を与え、称賛することで、より多くの児童が自信をもてるようにした。 ・ 席の配置については、固定化しないように学習内容に応じて意図的に変え、T・T指導を行った。 <p>③ 思考の共有</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教師が児童の考えを意図的に取り上げ、称賛し全体で紹介したり、勘違いしやすい部分について全体で確認したりしたため、児童は意欲的に取り組んでいた。 <p>④ 学び合い</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各グループで視点に沿った話し合いができるように指示した後、T1、T2、T3が連携して各グループの学び合いを見取り、全体で確認したり称賛したりした方がよいことを情報交換した。児童は、教師の称賛や支援により、安心して学び合いを行っていた。

3 実践の成果と課題

- 少人数のよさを生かした指導により、教師が子どもたちの多様な考えを引き出し、認め、伸ばすことができた。また、児童のつまずきを予想し、素早く見取り支援することにより、児童は意欲的に学習に取り組むようになった。
- 一人一人の児童の間違いやわからないことを生かした授業づくりを意識した結果、児童はより「わかった」という実感をもつようになった。
- 教師は、互いの学級の児童の様子をより把握できるようになり、教師と児童、児童同士のコミュニケーションが一層図られるようになった。
- 少人数教育について、教師間の話し合いの時間をしっかりと確保する必要がある。
- 単元の学習内容に応じた授業形態の在り方をさらに考えていく必要がある。